令和5年度 特別支援学校寄贈物品　使用状況報告書 【1年目】

Ｐ　Ｔ　Ａ名		静岡県立浜松特別支援学校ＰＴＡ
学校	対　象	☐視覚障害　☐聴覚障害　☑知的障害　☐肢体不自由　☐病弱
	設 置 部	☐幼稚部　☑小学部　☑中学部　☑高等部
	全校児童・生徒数	288人

1. 使用状況

寄贈物品名	にこすぽサーキッズセット（運動遊び用具）
使用学年及び人数	小学部1～6年　122人
使用頻度	週1回から週4回（学習計画による）
使用状況	体育では、どの学年も、サーキット運動で何種類もの教具を組み合わせて使用した。2年生は、3か所の教室に分かれて学習を行ったため、いただいた3セットの「にこすぽサーキッズセット」を常に使用することで、どの教室も同じように運動量を確保することができ、充実した体育活動を行うことができた。 自立活動では、教室よりも広い空間（プレイルーム）で使用した。 「にこすぽサーキッズセット」を2セット組み合わせて使用し、様々な身体の動きの学習を行った。
物品の使用による変化や効果	低めの平均台を使用することで、恐怖心をやわらげ、自分でバランスをとりながら渡り切り、達成感を味わうことができた。また、教具の組み合わせを工夫して使用することで、いろいろな体の動きをしたり、足元の目標物をよく見てジャンプをしたりするなど、興味関心を持続させながら、主体的に身体活動をすることができた。
今後の活用の見通しや課題	今後も室内体育や自立活動の学習で使用する。小学部の児童が体の使い方を覚え、体を動かすことが楽しいと感じられる学習活動を展開していきたい。 課題としては、使い方のパターン化が考えられる。どのような使い方ができて、どのような効果があったかなど、教員間で情報共有することで、児童にとってより効果的で魅力的な使用が望めると考える。
その他希望や所感など	3セットいただいたことで、使い方の幅が広がった。さらに、活動量を増やしたり、待ち時間を減らしたりすることができた。 素材が軽く丈夫なため、移動や保管が容易である。教室ですぐに準備をして使用したり、児童が片付けを手伝ったりすることができた。

2. 活用の様子

【体育】

高さが低く、安心して活動に臨める。教師がそばにつかなくても、一人でバランスを取りながら平均台を渡り切ることができた。

【自立活動①】

教具の組み合わせ方で、難易度を上げることができた。また、体の使い方を自分で考えて動く学習を展開することができた。

【自立活動②】

柔らかい色調のマットをよく見て、体の使い方を考えたり、勢いをコントロールしたりしながら活動に取り組む様子。

【自立活動③】

バランスを取りながら、友達とボールのやり取りをする様子。友達と取り組むことで、受け取りやすいボールの投げ方を考えたり、「友達が投げたボールをとることができた」と感じたりする児童の気持ちのあらわれを見ることができた。